

悠久の京を訪ねて Part IV

Vol.8



KYOTO
ARCHAEOLOGY CENTER

京は古より人々が集い、その気候・風土の中、人々の生活が営まれてきました。

京都府内の遺跡で多数発掘された出土品により、縄文・弥生時代までさかのぼり、当時の様子を知ることができます。

私たちが住んでいる地域にはどのような歴史があったのか、出土した資料を基に過去の文化やその発祥の歴史を訪ねましょう。

国史跡赤坂今井墳墓

■丹後の巨大首長墓

京丹後市赤坂今井墳墓は、弥生時代の終わり頃（3世紀前半頃）の巨大な墳墓で、中郡盆地から日本海へ抜ける谷筋に面した標高55mの丘陵先端部に造られています。

平成10～12年度の発掘調査で、東西36m、南北39m、高さ3.5mの方形の墳墓であることがわかりました。同時期の墳墓としては出雲市西谷3号墓や倉敷市楯築遺跡などと並ぶ全国最大規模の墳丘です。

墳丘上の埋葬施設は6基見つかりました。中心埋葬施設は長辺14m、短辺10.5mと他に類を見ない大きさでした。墓穴の周りでは埋葬儀礼に関連する施設と考えられる柱穴列が



姿を現した巨大な墳墓（墳丘の周りにも埋葬施設が見えます）

見つかりました。墓穴の上面からは埋葬後に置かれた円礫と破碎された土器が出土しました。また、墳丘の裾周りにはテ

赤坂今井墳墓

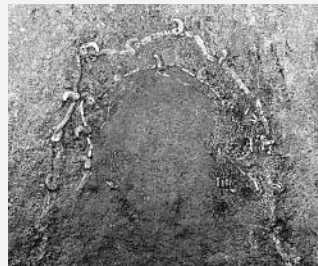


ラス状に平坦面があり、墓穴を合計19基確認しました。

■大陸との交流を物語る頭飾り

中心埋葬施設の東側に造られた長辺7.2m、短辺4mの第4埋葬施設では、棺内から短剣やヤリガンナとともに焔びやかな頭飾りと耳飾りが出土しました。出土状況から死者の頭部と耳を飾っていたと想像されます。頭飾りはガラスと碧玉の勾玉や管玉を三連に連ねており、布などに編み込んでいたものと考えられます。中でもガラス管玉は、成分分析から中国の後漢で作られた可能性が指摘されています。

赤坂今井墳墓は、その規模や副葬品から弥生時代終わり頃の日本海沿岸地域にあって丹後の優位性を示す遺跡として重要であるとともに、当時の装身具のあり方や装着方法などを知る上でも重要な遺跡であり、平成19年に国の史跡に指定されました。



第4埋葬施設で見つかった頭飾り